

栗原市地震防災マップ

地域の危険度マップ 花山地区

想定する4つの地震のうち最大の震度の場合

○この地域の危険度マップは、地域が揺れやすさマップ(想定する4つの地震のうち最大の震度)において示された強さ(震度)の揺れとなった場合に、地盤の液状化の影響を含めてどの程度の建物被害(全壊及び半壊率)が生じるかを100メートルメッシュ毎に評価し、相対的に表示したものです。

○防災上の可能性として、地域で発生する可能性のある最大の被害状況の目安を示したものであり、住民の皆様方の防災活動に役立てていただくためのものです。全域が同時にこのような被害となることを表現しているものではありません。

家具の地震対策も重要です。

■家具の対策

住宅の全壊を免れても、ガラスの鏡やタンス等の大型家具の転倒、テレビや電子レンジ等の家電製品が破損するといった、日常の生活に大きな支障を及ぼす事象により、おぼろげな力を失った、器類が倒れて家具に巻き込まれることがあります。特に児童や高齢者においても負傷等の恐れがあります。転倒によるケガによる被害も少なくありません。

家具や家電製品の地震対策としては、次のようなものが考えられます。

- 固定家具を固めて家具や家電製品を固定する。
- ガラスの器類は固定する。固定できない場合は、破損防止フィルムを貼る。
- 大型の家具は、固定する。固定できない場合は、破損防止フィルムを貼る。
- テレビや電子レンジ等の家電製品は、固定する。
- タンス等の大型家具は、固定する。
- ガラスの器類は、固定する。
- 固定できない場合は、破損防止フィルムを貼る。

地域の危険度マップとは

■地域の危険度マップ

地域の危険度マップは、地震による建築物(木造)被害者、その被害の程度に応じてランク別けた上で、地図に示したものです。具体的に、「揺れやすさマップ」で示した強さの揺れとなった場合に、地盤の液状化(※1)の影響を含めて、全壊(※2)程度の被害を受けると想定される建築物(木造)の割合を、「危険度」として示しています。

○地震による死亡・ケガの原因は何？

阪神大震災での死者のうちの約8割は地震直後の家具、建物による圧死といわれています。

○皆さんの生命・財産を守るためには、

住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。

建物の耐震化が重要です。

■木造住宅の耐震診断

木造住宅の耐震性は、主に3つのチェックポイントがあるとされています。

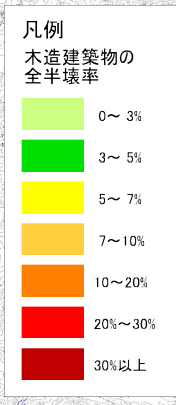
- 建てられてから、かなりの年月が経っているか(特に昭和56年以前に建てられたものか)。
- 住宅が過去に大きな災害(地震や水害など)を経験したことがあるか。
- 住宅の構造、形、傾いて大きな歪みがあるかなど、耐震に関わる基本的な住宅の性質に問題がないか。

耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。目立つ症状がなくても、耐震診断を受けることが重要です。次のような項目に心当たりがある住宅は、特に要注意です。

- ドアあるいは窓を閉めたとき、柱と柱との間に真しい楔長の三角形の隙間がある。
- ドアあるいは窓の扉付けが歪み、建具の閉りが悪くなるように思われる。
- 窓のガラスが歪み、水平を欠いている。
- 建物の壁面が傾斜しているのが、肉眼でもわかる。
- 床面の隙間が生じている。
- シロアリの発生(4枚羽根のついでにシロアリが浴室から湧き出す)。
- 屋根の棟があるいは軒先が歪んでいる。
- モルタル塗壁に長い斜めひび割れが入っている。
- 浴しや浴室の土台の一部が老朽化している(腐っているなど)。



大崎市



お問い合わせ先
栗原市 建設部 建築住宅課
TEL 0228-22-1153
FAX 0228-22-0313

※このマップにおいて、市の境界部等で、計算上、色の差がでない箇所があります。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、両院発行の数値地図50000(地図画像)及び数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平19総務 第990号)

